ひのくに偉人伝

藩政黄金時代を築いた肥後の鳳凰

細川 重賢

宝暦の頃、肥後熊本に蒲池喜左衛門正定という者があった。藩主細川重賢の側近の一人である。鷹狩に出た重賢が犬を引けと命じれば、「犬は犬引きにお引かせください」と答える。また、居間を掃除せよと言えば、「それは掃除坊主にお申しつけください」と取り合わない。こうした事が続くうちに、何かと気まずくなったのだろう。ついに側近の職を辞してしまった。

それから数年後、重賢は成趣園（今の水前寺公園）に遊び、帰途激しい雨に見舞われた。供の者が花畑の館邸に駆け帰り、「今日は東門よりお入りになる」と告げる。「いや先例通り南門より入られよ」門衛として頑張っているのは、くだんの正定である。「殿は雨に濡れて門前にお立ちであるぞ」「なに、かまうものか。殿の体は紙でできているわけではあるまい。人の上に立つものが、少々の事で先例を変じてはならぬ」正定は一歩も引こうとしない。ついに、重賢は迂回して南門から入った。すでに衣服はびしょ濡れになっていた。その夜、重賢はしきりに「危なかった、危なかった」とつぶやいている。不審に思った重臣が訳を訊ねると、「余は危うく、一人の良臣の能力を見誤るところじゃった。正定の今日の振舞、あの剛直さこそ、藩政に必要なものじゃ」

こうして、正定は奉行職に抜擢された。彼は物腰が鈍く、道で人に会ってもすぐには挨拶も出ぬほど風采のあがらない人物だった。奉行になっても難しい事はその場で裁かず、必ず家に持ち帰って思案の上、決定を下した。しかし、その内容は異論の余地がないほどしっかりしたものであったという。

「自分の好みで人材を選んではならぬ。また、こちらが用意した尺度だけで人を求めてもならぬ。一見して、少し世間一般と調子が違うような者に、かえって大きな能力が隠されているものじゃ」重賢は折にふれて、重臣たちにそう語ったという。

名宰相といわれた堀平太左衛門をはじめとして、志水才助、文人の秋山王山、片岡朱陵など、重賢の治政下には多くの英傑、逸才が集まった。こうして肥後藩は、その黄金時代を迎えたのである。

（熊本市立博物館蔵）

数々の改革を断行

延享四年（一七四七）、細川重賢は第八代藩主の座に就いた。当時、肥後藩の財政は極度に悪化しており、借金は三十七、八万両にも上っていたという。参勤交代の費用にも事欠き、しばしば出発を延期させる程だった。江戸民間の諺にさえ「新しき鍋釜には、細川と申す文字を書き付ければ、金気（かねけ）は出ず」と言われるまでに、藩の信用は地に落ちていた。

こうした藩の危機を目の当りにして、重賢は抜本的な藩政改革の必要性を痛感した。そして、宝暦二年（一七五二）長く欠官となっていた大奉行に堀平太左衛門勝名を起用し、世にいう「宝暦の改革」に着手した。この改革は、税制、刑法の改正、行政機構の見直し、櫨、養蚕の奨励と専売化など多方面に及んだ。また、文教面にも力を入れ、藩校「時習館」をはじめ、医療機関「再春館」、薬草の研究所「藩滋園」を開き、数多くの人材を育成した。中でも「時習館」は、才覚次第で庶民の子弟にも学ぶ機会を与え、寄宿費も藩が負担するなど、充実した内容を誇っていた。

これは、身分制度の厳しかった当時としては画期的な事である。こうした一連の改革は藩政に新風を吹き込み、困窮を極めた財政も、次第に好転していった。

重賢による宝暦の改革は、天保期に全国諸藩で行なわれた改革に半世紀以上も先がけて実施された。「肥後物語」を著した福岡黒田藩の儒学者・亀井南冥のように、藩主の命によって肥後藩を訪れ、改革の実状を学ぶ者も後を絶たなかったという。

「紀州に麒麟、肥後に鳳凰」――全国にはこんな歌が流行した。紀州藩、徳川治貞と共に重賢の君主としての名声は、すでに日本中に知れわたっていたのである。

有能な人材を発掘

徳川氏による支配が確立されて百五十年。重賢の治政はすでにこの幕藩体制の矛盾が様々な意味で表面化し始めた時代にあった。肥後藩においても、家臣団は先祖の戦功によって身分が決定しており、その序列に従って藩政に参画していた。高い理想も才覚もない者が行政を取り仕切る一方、職務を悪用して私腹を肥やす者が後を絶たなかったという。

重賢は、こうした状況に激しい憤りを覚えていた。何とかして世襲の重臣たちによる弛みきった藩政を廃し、有能な全藩士に解放しなければならない。彼はこの困難な改革が、藩主一人の力で成し遂げられない事を知っていた。様々な能力を持った人材が、それぞれの力を発揮して初めて、可能になると考えたのである。重賢によって、それまで目の目を見る事の少なかった多くの中・下級藩士たちが抜擢され、改革の大きな推進力となっていった。

秘められた能力を見抜く鋭い眼識と、その力を発揮させる人使いのうまさ。肥後の鳳凰・細川重賢の名君たる所以は、このあたりにあったのかもしれない。

重賢公が愛用した机（熊本市立博物館蔵）

参考文献
●熊本県人／渡辺京二
●細川重賢／森田誠一
●細川霊感公／宇野東風